

## 第7回日本産科婦人科遺伝診療学会

0-34

大阪, 2021. 12. 17-18

PGT-A 施行による Euploid 胚を複数回移植しても妊娠成立しなかった着床障害の一例

太田志代<sup>1)</sup>, 中岡義晴<sup>1)</sup>, 山内博子<sup>1)</sup>, 中野達也<sup>1)</sup>, 庵前美智子<sup>1)</sup>, 森本義晴<sup>2)</sup>  
IVF なんばクリニック<sup>1)</sup>, HORAC グランフロント大阪クリニック<sup>2)</sup>

### 【はじめに】

着床前胚染色体異数性検査（以下、PGT-A）で Euploid と確認された胚を複数回移植しても妊娠成立しなかった症例の経過を報告する。

### 【経過】

症例は36歳、未妊。初回採卵後に単一胚盤胞移植を2回、その後2段階胚移植2回実施しても妊娠せず、子宮内フローラ検査・子宮内膜着床能検査を含む着床障害スクリーニング検査を行った。抗生剤による子宮内フローラ治療後に単一胚盤胞移植を2回実施しても妊娠せず。その後反復不成功の適応でPGT-Aを実施し、Euploid と確認された胚を3回移植しても妊娠しなかった。

末梢血中のヘルパーT1 (Th1) 細胞とヘルパーT2 (Th2) 細胞の比がTh1 優位を示す場合に着床不全の原因となる可能性が報告されており、本症例で検査したところ高値を示した。Euploid 胚2回目の移植の際にTh1 抑制目的のためタクロリムスを使用、Euploid 胚3回目の移植にはタクロリムスに加え多血小板血漿療法を併用して移植したが妊娠せず。その間定期的にTh1/Th2 比を測定したが比の高値は継続し、タクロリムス投与開始後も低下を認めなかった。その後はPGT-A 実施は希望されず、PGT-A 解析のない胚盤胞移植を実施。タクロリムスの代わりに柴苓湯を移植前周期から継続投与とした。柴苓湯開始後にTh1/Th2 比は正常域に達したことが確認され、その周期の単一胚盤胞移植で妊娠成立、その後の経過は良好で妊娠9週で卒院された。

### 【結論】

着床前診断を実施しEuploid 胚を複数回移植しても妊娠せず、柴苓湯使用後に初めて妊娠した着床障害症例を経験した。本症例では着床障害の原因に免疫因子が関与しており、柴苓湯の免疫抑制作用の効果があったと推測されるが、結論には更なる検討が必要である。